

## 学校と森林体験活動団体が連携！持続可能な社会づくりの人材育成！ —「森林環境教育（森林ESD）活動報告・意見交換会」開催—

【前号(87号)から続く】

1月28日(土)、大阪市北区の近畿中国森林管理局大会議室において、(公社)国土緑化推進機構及びNPO法人近畿環境市民活動総合支援センターと共催して「森林環境教育(森林ESD)活動報告・意見交換」を開催しました。

わが国の森林・林業施策の総合計画「森林・林業基本計画」は、平成28年5月の改訂において「森林環境教育等の推進」の項目が拡充され、ESDの視点や教育機関等との連携を強化していくことが示されました。

一方、わが国の教育等の基本的な重要施策を調査審議する中央教育審議会は、平成28年12月の答申において、アクティブ・ラーニング(主体的・対話的で深い学び)の視点からの「学び方の改善」や、学校と地域が連携・協働した「学びの体制の改善」が示されました。

これらの動きを受け当センターでは、「体験する・知る・かかわる」場として成立している森林を、ESDの内容としてふさわしい場と捉え、森林の活用による「学び方の充実」が、学校と地域の森林関係団体の連携による「学びの体制の構築」により、効果的に推進できると考え当会を企画しました。

### 事例報告

6事例それぞれを、学校・団体双方からあわせて13者から報告。発表者は事前に分析シートを作成し、ESDの視点で活動の目標・内容を整理。



事例報告について、参加者からは「双方の立場から課題を聞いて参考になった」「今後の活動を考える参考となった」などの意見が寄せられました。

分析シートについて、報告者からは、「細かく目標設定がされ活動目的が整理でき、課題も明らかになった」「これまでの取組をESDの視点から再確認し今後の方向性を考えることができた」など、活動の整理やESDの普及に繋がるものとして評価されました。

## 意見交換

参加者が8班に分かれて、「森林ESDの感想・疑問」「教育機関と地域団体等の連携・協働の課題」のふたつのテーマで、意見交換を行いました。

意見交換会について、議論を深める時間が少ないという意見もありましたが、立場の違う人との交流により「先生も団体も苦労していることなど思いがわかった」「いろいろなところで活動が取り組まれていることを実感した」「森林ESDに取り組む団体が多くあることに驚いた」「今日出逢えたたくさんの方とのディスカッションは、今の私にとってとてもありがたいものだった」など、参加者同士の学び合いが生まれました。



## 主催・共催団体あいさつ



「それぞれの機関同士の信頼関係をいかに作るかが重要。『森』を活用してほしい」。

共催団体、公益社団法人国土緑化推進機構  
富永茂政策企画部長



「次に繋がるヒントと輪をもらった。みんなで輪を拡げることで成果を広めていこう」。

共催団体、NPO法人近畿環境市民活動総合支援センター  
平田通文理事長



「ESDが目指していることが、『森林』にすべて盛り込まれているんだということも再認識して取り組んでほしい」

主催、近畿中国森林管理局  
高井秀章森林整備部長

## 森林管理局の森林のギャラリー、活動紹介パネルの前で参加者交流。



当センターでは、共催団体とも連携し、活動団体、教育機関、文部科学省や環境省・府県関係、指導的立場の方など、公的機関や教育関係・活動団体等へのアプローチを行い、多様な組織の参加を得ることができました。関係の皆様のご協力に心から感謝申し上げます。こうした多様な機関・団体等が集まり、学びや交流ができる場はまだ少なく、今後も続けてもらいたいとの意見が多く寄せられており、「森林環境教育の普及」に取り組む当センターの役割として、引き続き連携を図りながら取り組んで行こうと考えていますので、今後とも皆様のご支援をいただければ幸いです。